

地域密着型金融推進計画の進捗状況

1. 平成17年4月から19年3月までの全体的な進捗状況及びそれに対する評価

ほぼ計画どおり進めることができたという評価しております。

引き続きこれらの施策を着実に実行しつつ、中小零細事業者と個人に対する円滑な資金供給や経営相談・支援機能、情報提供機能などの付加価値の高いサービスを提供するとともに地域金融に対して十分な役割と機能を果たせる金融機関を目指します。

2. 地域密着型金融推進計画に基づく個別項目の進捗状況表

項目	具体的取組策	スケジュール		進捗状況 17年4月～19年3月
		17年度	18年度	
1. 事業再生・中小企業金融の円滑化				
(1) 創業・新事業支援機能等の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・OJTにより情報収集能力の育成強化を図る。 ・地域中小企業支援センターを定例的に訪問し、情報の収集を行う。 ・国民生活金融公庫・商工中金・保証協会等の有効活用を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域中小企業支援センターを訪問し、情報収集を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域中小企業支援センターを訪問し、情報収集を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域中小企業支援センター（シニアアドバイザーセンター）へ毎月1回訪問し情報交換実施。経営革新計画先リストの他14件の情報を収集。継続して情報提供を約束済 ・新規事業先に対する貸出実績 成果 37先 530百万円
(2) 取引先企業に対する経営相談・支援機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・情報連絡書は支店ごとに、毎月1件以上の提供を求め、マッチングに結びつける。 ・「淡陽ニュース」「デイリー経済情報」を引続き発行。 ・しんくみ生活センター「あのねット」の企業向けシステムが有効であれば、その活用を図り、ビジネスマッチングに結びつける。 ・ランクアップ先については本支一体で取組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「淡陽ニュース」発行。 ・ランクアップ対象先の選定・取組み。 ・情報連絡書の記入・提供を徹底、取りまとめ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「淡陽ニュース」発行。 ・ランクアップへの取組み。 ・情報連絡書の取りまとめ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月「淡陽ニュース」を発行。毎日「デイリー経済情報」を提供。 ・平成17年9月支店長会にて各店毎月1件以上情報連絡書提出を指示。ビジネスマッチング情報73件、内成果1件。 ・平成17年9月貸出先「ランクアップ運動」対象先を通知、方針・施策を徹底した。ランクアップ対象先27先、内成果16先
(3) 事業再生に向けた積極的取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の貸出審査の中から対象先を発掘し、再生協議会に相談を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談対象企業の発掘。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談対象企業の発掘。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状対象先なし。
(4) 担保・保証に過度に依存しない融資の推進等	<ul style="list-style-type: none"> ・企業格付精度を向上させ、格付を利用し、審査をスコアリング化した商品開発を行う。 ・TKCとの提携による商品開発を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業格付制度の見直し。 ・企業格付を利用した商品の検討。 ・TKCとの協議。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開発商品の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・約1140社の企業格付登録を実施。自己査定との整合性検討のため修正データ登録作業実施中。 ・保証協会提携の格付利用商品「スーパーじんそく」「じんそく」等の実績が上がっている。 ・18年4月商工中金提携による保証制度「地域金融支援保証制度」の導入（成果23先280百万円）

(淡陽信用組合)

項目	具体的取組策	スケジュール		進捗状況 17年4月～19年3月
		17年度	18年度	
(5) 顧客への説明態勢の整備、相談苦情処理機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンスとして顧客への説明・相談・苦情への対応等職員への周知徹底を図る。 ・顧客からの相談・苦情について支店から本部への報告を徹底し、内容把握、分析、改善等の強化を図る。 ・「ご相談窓口」(支店)と「お客様相談室」(本部)との連携を図り、本支一体となって取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経営会議への報告(苦情内容分析・結果・改善策) ・相談、苦情処理対応について周知徹底(通達出状等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の取り組み実績を検証のうえ、取組評価を把握し適宜改善を図る。 ・顧客への説明態勢、相談・苦情処理機能の一層の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者保護の確保と与信取引に関する顧客への説明態勢について融資実務研修と営業店での職場内研修等で役職員へ再徹底。 ・相談・苦情処理機能の強化として支店長会議等で周知・徹底、苦情等の内容を経営会議に報告し、対応を行った。
(6) 人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・融資実務研修(月1回、土曜日)を継続する。内容的には、実例を中心とする「事例研究」を多くして、地域の特性に対応できる能力を養成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回の融資実務研修を実施。 ・外部研修に職員を派遣。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回の融資実務研修を実施。 ・外部研修に職員を派遣。 	<ul style="list-style-type: none"> ・17年4月23日～19年3月17日毎月1回「融資実務研修」を実施。(都合23回) ・17年9月14日～9月15日及び17年11月16日～11月17日、18年9月14日～9月15日及び19年1月18日～1月19日保証協会主催「信用保証業務基礎講座」へ職員派遣。
2. 経営力の強化				
(1) リスク管理態勢の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・信用リスク管理については自己査定支援システムや貸倒実績率算定システムを導入し、精度を高め、より適切な自己査定及び償却・引当を実施する。 ・市場リスク管理についても債券の保有区分毎に、最大予想損失額(VaR)や評価損益を毎月算出してチェックするほか、ストレステストなどにより管理手法の高度化を図り、リスク管理態勢を一層充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己査定支援システムや貸倒実績率算定システムの導入に備えた態勢整備を行い、導入する。 ・ストレステストのプログラムを構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度までの実績を踏まえ、パーゼル導入のための態勢を点検、整備して、導入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己査定支援システムの導入等で格付と自己査定との整合性向上を図り、格付の精度を高めており、格付を活用したポートフォリオ管理や融資審査の実施について検討を行っている。 ・市場リスクについても最大予想損失額(VaR)等による管理のほか、ストレステストプログラムを構築して管理態勢の一層の高度化を図った。 ・パーゼル導入に向けたリスク管理態勢の構築を行った。
(2) 収益管理態勢の整備と収益力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・債務者区分と格付が一致しない先について原因等を究明し、債務者区分と整合的な格付制度を構築する。 ・種々情報を収集し、格付制度を利用したリスクに見合った金利設定を行い、収益力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・債務者区分と格付の不一致の原因を究明する。 ・金利設定に関する情報を収集し、リスクに見合った金利体系を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・精度の高い格付制度を構築し、格付を利用したリスクに見合った金利体系を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・格付による金利体系について種々の情報を収集して検討を行い、当組での格付を利用した金利体系の構築を行うべく計画。

(淡陽信用組合)

項目	具体的取組策	スケジュール		進捗状況
		17年度	18年度	17年4月～19年3月
(3) ガバナンスの強化	<ul style="list-style-type: none"> ・半期開示の内容充実を図る。 ・総代会に一般の組合員の意見を反映させる仕組み等、総代会の機能強化に向けた取組みについて整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全信中協の検討結果を踏まえて内容を検討し、体制の整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容の検討を踏まえ、半期開示の内容を充実し、総代会の機能強化を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成17年7月からディスクロージャー誌に「総代会制度について」及び「総代氏名」を公表し、意見等を聴取している。 ・総代による「洲本淡陽会」を適宜開催し、役員との意見交換会を実施している。 ・「財務諸表の正確性、内部監査の有効性についての経営責任の明確化」を18年3月期決算から実施してガバナンスの強化を図った。 ・半期開示の内容充実等により引き続き「ガバナンスの強化」に取り組む。
(4) 法令等遵守(コンプライアンス)態勢の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・引続き、法令等遵守について、役職員に対し研修会その他で周知徹底を図る。 ・法令等遵守状況についての点検強化に引続き取り組む。 ・顧客情報の管理・取扱いについて「個人情報保護宣言」「個人情報保護規程」等に則り厳正に取扱う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・法令等遵守について役職員への研修実施。 ・法令等の遵守状況の点検と検証。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の実績を検証のうえ、取組み評価を把握し、適宜改善を図る。 ・引続き、法令等遵守(コンプライアンス)の徹底を図る。 ・法令等遵守について役職員への研修実施。 ・法令等の遵守状況の点検と検証。 	<ul style="list-style-type: none"> ・法令の施行に対応した規程の制定・改定及び研修の実施等によりコンプライアンス態勢の整備と役職員への周知・徹底が進んだ。 ・今後も職場内教育等による役職員への周知・徹底及びコンプライアンス態勢の点検・検証の継続実施に努める。
(5) ITの戦略的活用	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットバンキングやモバイルバンキングに給与振込や総合振込の機能を追加する。 ・「あのねット」によるビジネスマッチング等の企業向けシステムを積極的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットバンキングやモバイルバンキングに給与振込や総合振込の機能を追加するとともにセキュリティの強化を図る。 ・17年12月開始の「あのねット」によるビジネスマッチングに積極的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報等の収集により一層の機能強化を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットバンキングの機能を充実し、給与振込、総合振込の取扱いを開始した(18年4月)。 ・「あのねット」ビジネスマッチングシステムに情報登録(4件)を行うなど、活用を図っている。 ・ホームページの内容を改善。淡陽ニュースで利用のPRを実施。
(6) 協同組織中央機関の機能強化	<ul style="list-style-type: none"> ・満期保有、その他保有、総合と保有区分毎に区別して、最大予想損失額(VaR)、参考時価額による評価損益を算出、チェックできる態勢を構築するとともにストレステストの実施等で管理手法の一層の高度化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バーゼル 導入に備え、ストレステストのプログラムを構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度までの実績を検討のうえ、一層の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最大予想損失額(VaR)や評価損益を毎月算出して管理を行っているほか、ストレステストプログラムの構築により、管理態勢の一層の高度化を図っている。

項 目	具体的取組策	スケジュール		進捗状況
		17年度	18年度	17年4月～19年3月
3. 地域の利用者の利便性向上				
(1) 地域貢献に関する情報開示	<ul style="list-style-type: none"> 地域の中小零細事業者や生活者に対して、円滑な資金供給と金融サービスを提供していくと共に、地域サービスの充実や文化的・社会的貢献活動も含めた地域貢献活動について、広報紙、ディスクロージャー誌、ミニディスクロージャー誌、ホームページ等を通して、充実した分かりやすい情報開示に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報紙（淡陽ニュース）発行。 ディスクロージャー誌発行。 ミニディスクロージャー誌発行。 地域貢献活動、情報開示について検証、見直し。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報紙（淡陽ニュース）発行。 ディスクロージャー誌発行。 ミニディスクロージャー誌発行。 地域貢献活動、情報開示について検証、見直し。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月広報紙「淡陽ニュース」発行。「あのねットサービス」提供開始（17年4月）「献血運動」実施（17年9月、18年9月）「ピーターパンカード寄付金」贈呈（17年9月、18年9月）「講演会」開催（17年11月、18年11月）「あのねットビジネスマッチング」提供開始（17年12月）について公表、開示。 「ディスクロージャー誌」発行（17年7月、18年7月）。 「ミニディスクロージャー誌」発行（17年11月、18年11月）。
(3) 地域の利用者の満足度を重視した金融機関経営の確立	<ul style="list-style-type: none"> 「ご相談窓口(営業店)」、「お客様相談室(本部)」の連携を図り、本支一体となってサービスの提供に取り組む。 経営情報の提供として、引き続き「デイリー経済情報」の活用と「講演会」を開催する。 しんくみ生活総合センターの「あのねット」を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者満足度アンケートの検討、実施。 利用者の声の把握・検証。 「経済講演会」、「CS・マナー研修会」実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者満足度アンケート調査改善必要項目の選定と取組み。 利用者の声の把握・検証。 「経済講演会」、「CS・マナー研修会」実施 	<ul style="list-style-type: none"> 第1回「利用者満足度アンケート」調査実施（18年1月）。アンケート20項目、調査先数1,230先、（回答先数1,180先）。改善実施項目（公表）は「インターネットバンキングの機能追加（給与振込・総合振込）」、「融資関連新商品等取扱開始」、「店舗の改装」他。 第2回アンケート調査実施（19年2月）。アンケート15項目、調査先数1,230先（回答先数1,187先）。 「ホームページ」、「淡陽ニュース」で「あのねット」の内容、活用方法について掲載。 情報提供サービスとして「経済講演会」開催（17年11月、18年11月）利用者満足度向上策として女子職員に対して「CS・マナー研修会」実施（17年11月、18年10月）。 カード紛失・盗難受付センター設置（18年5月）。
(4) 地域再生推進のための各種施策との連携等	<ul style="list-style-type: none"> 地域全体の活性化、地域におけるPFI情報を入手する。 地域再生推進に向けた各種施策を把握し、連携を図る。 まち再生支援に地域と一体となって取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の活性化計画、PFI情報の入手を図る。 各種施策を把握して案件があれば積極的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の活性化計画、PFI情報の入手を図る。 各種施策を把握して案件があれば積極的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 17年9月地元特産品の関係機関から資金需要情報入手（共同仕入資金2百万円、10月融資）。 17年9月地域活性化策としての地元神社復興工事情報入手（工事資金、57百万円、地元金融機関協調融資11月～18年1月）。 18年2月地元町内会壇尻修理情報入手（修理資金11百万円、2月融資）。 18年7月地元商工会主体の記念事業開催情報入手（県・市助成金入金までの繋ぎ資金5百万円10月貸出）。 19年1月地元ケーブルテレビの整備・管理を目的とした任意団体設立情報入手（運転資金10百万円、1月融資）。

（淡陽信用組合）